



今回は大津市北部だけでなく、滋賀県全域、NPO 等でお知り合いになった方々に環境関係の本の推薦を、BCC で送信させてもらっています。

『リーディング・環境』（全5巻）という本がありますが、ご存じでしょうか。脳出血で入院中に主治医の先生から「脳の活性化には専門書を読んだ方が良い」と薦められ、1日2時間、1冊20日のペースで全5巻を読み終えました。そして環境についての幅の広さ、奥の深さがわかったような気がして、学者先生とも話ができると自信が出てきました。すでにお読みになられた方もいると思いますが、PR させてください。（5分間、お付き合いください）

『リーディング・環境』は、産業革命以降の環境問題に社会的影響を与えたとされる必読論文、論考186編を各巻のタイトルに従って、宝石をちりばめるように編集されたものです。日本を代表する環境経済学の植田 和弘、環境社会学・長谷川 公一、環境法学・淡路 剛久、環境倫理学・川本 隆史、の4人の先生方が情熱を傾け、数十回に及ぶ編集会議を経て刊行されました。

第1巻：【自然と人間】 解題（内容の解説）川本 隆史・・・44編の論文・論考。

186編のトップバッターはレイチェル・カーソンの「沈黙の春」『沈黙の春』より「明日のための寓話（13）」が取り上げられています。「しがのさと」旧・志賀町夏祭り特集号で小原代表が巻頭言で取り上げたものです。

次に「成長の限界 ローマクラブ〈人類の危機〉レポート」よりが続きます。「水俣病に学ぶ」『胎児からのメッセージ』より、「環境世界」『生物から見た世界』より、ケネス・ボールデンの「宇宙船地球号の経済学」もあり、環境危機に対する警鐘と告発から始まっています。

第2巻：【権利と価値】 解題 植田 和弘・・・36編の論文・論考。

被害・損失、環境権、自然の権利などの論文ですが、所有・責任もキーワードに入っています。最初に第二巻を読むべきだという見方があります。「[環境権の確立を求めて](#)」『公害研究』、「[共有地の悲劇](#)」『環境の倫理』よりがあります。

第3巻：【生活と運動】 解題 長谷川 公一・・・35編の論文・論考。

第3巻は社会人には読みやすい内容です。「[足尾銅山鉍毒事件](#)」『岩波講座・日本通史』より、「[公害原論ーはじめに](#)」『公害原論』より、「[地域開発の現実と課題](#)」『大都市とコンビナート・大阪』より、「[大量廃棄社会の構造](#)」『廃棄物の経済学』より等ですが、[嘉田知事](#)の「[ホテルの原風景ーその文化的アプローチ](#)」『生活世界の環境学』よりも掲載されています。

第4巻：【法・経済・政策】 解題 淡路 剛久・・・41編の論文・論考。

「[環境法の生成](#)」『環境法』第2版より、「[環境アセスメントの今後の在り方](#)」『環境情報科学』第25巻第4号より、「[公害と住民運動](#)」『新幹線公害』より等が掲載されています。「必ず原文に当たってください。」と言って植田先生からご教授いただいたのが第4巻ですが、時々病室に姿を見せてくれた、脳外科の主治医が「難しくてわからない」と最後は投げたのが第4巻です。

第5巻：【持続可能な発展】 解題 植田 和弘・・・30編の論文・論考。

最後の巻は地球環境問題、貧困と環境問題、成長と発展を問い直し、持続可能な発展とは何かの論文が掲載されています。「[オゾン層はどこまで守られているか](#)」『環境と公害』第25巻第3号より、「[京都議定書](#)」『国際条約集 2006年版』より、「[貧しさと豊かさ](#)」『不平等の再検討ー潜在能力と自由』第7章より、「[公共事業政策の転換](#)」『川と開発を考えるーダム時代は終わったか』第1部よりなどがあり、最後はハーマン・デイリーの「[定常状態の経済](#)」で締めくくられています。この理論は成長経済の否定であり、興味深いものです。

以上、私の無責任な選択で適当に論文をピックアップして説明させて頂きましたが、実践経験豊かな社会人の方々は、まだ読んでいなければ、ぜひ、どれか1冊買い求め頂きたいと思います。必ずプラスになります。

山田 利春

[toshiharu@mtb.biglobe.ne.jp](mailto:toshiharu@mtb.biglobe.ne.jp)